

平成 31 年度公立諏訪東京理科大学入学式式辞

ご入学おめでとうございます。

公立諏訪東京理科大学の教員、職員を代表して、新入生の皆様、ご列席のご家族の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

また、諏訪広域公立大学事務組合長で茅野市長の柳平千代様をはじめとする多数のご来賓の方々に、ご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、今、第四次産業革命が始まろうとしています。

「モノのインターネット」とも呼ばれる IoT により、すべての「モノ」がインターネットに繋がり、これによってさまざまな産業構造が変化し、第四次産業革命が起こると予想されています。第三次産業革命の時と異なり、人間が指示を出さずとも、コンピューターが自分で判断して最適な行動をとる、そのような時代が始まる可能性があります。車の自動運転はその一つです。

第四次産業革命は、2011 年にドイツ政府が推進した国家プロジェクトが発端だと言われています。IoT、AI によって人と設備が協調して動き、生産性が向上することが期待されています。

第四次産業革命の技術的要素は、センシング、通信、AI 等によるデータ処理、ロボット技術等だと考えています。本校では、これら全てについて、研究・開発を行っています。

例えば、モノのインターネットにおいて本命と予想されている通信方式、LPWA（低出力で広範囲がカバーできる通信方式のこと）を用いた第四次産業革命の基礎となる技術の研究・開発を行っています。

そのために、この分野で世界トップレベルの技術者を、特任教授としてお迎えしました。

本大学には、皆様がこのような最先端の研究開発を体験できる環境が整っています。

諏訪地域には、多数の先端技術を持った企業があり、それらを身近に感じることもできます。

ところで、皆さん、19 世紀を代表するフランス人彫刻家、フランソワ・ロダンをご存じですか？

「考える人」はロダンの代表作品です。

ロダンは「考える人」の前に「地獄の門」という作品を手掛けました。

ダンテが書いた長編叙事詩、「神曲」の中に出てくる地獄をモデルにした作品で、地獄へ落とされた罪人たちがもがき苦しむさまが表現されています。

「考える人」は門の上に座って、眼下に広がる地獄を覗き込んでいる人だといわれています。

この門の上の「考える人」を拡大して独立した作品にしたのが、いわゆる「考える人」です。

東京・上野の国立西洋美術館の庭には「地獄の門」も「考える人」も展示してありますのでぜひ鑑賞してみてください。

この「考える人」のポーズをマネしたことがありますか？

右肘を左足のものの上に載せ、右手の甲の上にあごを載せてすわる、あのポーズです。マネしてみると不自然に捻った難しいポーズだということがわかります。

不自然なのに、何故、ロダンはこのポーズを採用したのでしょうか？

体を捻らすことによって筋肉美がより強調できると考えたからだ、とされています。また、手の大きさが、顔と比較して不自然に大きいのも特徴です。

これらの不自然さは、決してロダンの彫刻の腕が悪いからではありません。

ロダンを有名にした初期の作品に「青銅時代」という等身大の男性像があります。この作品は、あまりに精巧にでき上がっていたため、彫刻ではなく実際の人間から型を取って作成したのではないかと疑いをかけられ、当初、審査会で落選してしまいました。

ロダンの彫刻の腕前はどのように超一流だったのです。

ロダンが目指したものは、「人物を緻密にそのままの形で表現する彫刻」を超え、「見る人の感性に響く形の彫刻」だったのだと思います。

そのために必要なら、不自然さも形のデフォルトも躊躇しなかったのだと思います。すなわち、左脳的な論理性をもった緻密・精確さと右脳的な感性を合わせ持った天才がロダンだったのだと思います。

人工知能は、3Dプリンターを使い、ロダンのような作品は作れるようになると思いますが、ロダンを超える作品は作れません。

工業技術の分野も同じです。

人工知能は、左脳的な能力では人間を凌駕すると思います。

計算機が人より速く計算できるのと同じです。

計算機の場合、人がそれと協働することにより社会は大きく発展しました。

これからは、AIと人が共に働く、協働するのが社会の発展につながると考えています。

AIが持つ左脳的な能力と人の持つ右脳的な感性の力が協働することにより、社会は発展していくと考えています。

もちろん、皆さんが社会にでて活躍するには右脳的な能力だけでなく左脳的な能力も必要だと思います。

本学では、左脳的な能力向上を目指した優れたカリキュラムを用意しています。
このカリキュラムで左脳を鍛えると同時に、諏訪地域を見回してみてください。
美しい自然などが多数あります。
美しい山野草、苔むした森、山々を写す湖面、そして八ヶ岳を代表とする山々、宝石の
ような星々、右脳を刺激し感性を磨いてくれます。
縄文土器や土偶はいかがですか？
建築家、藤森氏の縄文時代を連想させる、あるいは森の妖精の家を連想させる茶室を見
学するのはいかがですか？
この大学のすぐ近くで見ることができます。
右脳を刺激すること間違いありません。
諏訪大社やその式年祭であり、日本三大奇祭の一つ御柱祭はどうですか？
この地域の人々の力強い息吹を感じます。
この感動も右脳を刺激するには十分です。
諏訪地域は、右脳を刺激するものであふれています。

ぜひ皆さん、この4年間で、左脳と右脳をバランスよく鍛え、第四次産業革命の時代
に活躍できる基礎を築いてください。

皆様がこの大学で成長してゆく姿を見るのを大変楽しみにしています。

平成31年4月6日
公立諏訪東京理科大学学長 小越澄雄